



顔と心を合わせ地域で難問解決

協働パターン 自治会と団体、企業



概要

主体者名称	下和泉住宅自治会、下和泉地区交通対策委員会				町会設立年	1962年	
協働先	天台観光株式会社						
所在地	神奈川県横浜市泉区	町会加入世帯数	930	加入率	87.3%	町会運営メンバー	31人 平均67.6歳
地域の状況	下和泉住宅は、1962年に田園・畑に挟まれた山林丘陵地を整地して建設された。最寄りの鉄道駅まで徒歩30分以上という立地であるが、1999年に地下鉄延伸の影響で路線バスが大幅に減便して更なる交通不便地となり、高齢世帯のみならず、通勤・通学にも影響が出ていた。						
協働の内容	自治会では、住民からの交通不便解消の要望を受け、2002年から地元の観光バス会社と連携してバスの自主運行を開始。その後横浜市の地域交通サポート事業に登録し、地域組織・バス会社・横浜市の3者で検討を重ね、試験運行を経て、2014年に待望の路線バス化が実現した。						

協働のきっかけ

下和泉住宅は最寄の駅まで約2km、バス停まで約1kmという立地で、住民は住宅地への入居が始まった30年前からバスの運行を要望していました。ところが1999年には横浜市営地下鉄の延伸に伴って路線バスの系統が再編・減便され、交通事情はさらに悪化してしまいました。自治会は下和泉地区交通対策委員会を組織してこの問題に取り組むことにしました。

複数のバス事業者と交渉したものの実現に至らなかったのですが、乗合タクシーの利用についてタクシー会社に相談に行った際、敷地内にあった観光マイクロバスが目にとまり、バスの運行会社である天台観光との協働が始まりました。

回答者

下和泉住宅自治会会長
たかだ たかし
高田 孝 さん



下和泉住宅自治会元会長・
交通対策委員長・
Eバス 運行世話人代表
さくま みきお
佐久間 幹雄 さん



元天台観光株式会社 取締役副社長
現イースタン企画株式会社
代表取締役
まつお たかあき
松尾 高明 さん

取組内容

大きな課題は、法令上、天台観光の貸切バス事業の認可では、路線バスのように乗合バス事業は行えないことでした。天台観光は法令を遵守しながらできることを検討し、運賃の回収はせず、自治体との契約でコミュニティバス（以下、Eバス）を運行する方法を提案しました。

自治会と交通対策委員会は、住民に乗車を希望するか、何回くらい乗るかなどマーケティング調査を実施して乗車料金を設定。会員登録制度として事前に会費を徴収し、天台観光との契約費用としました。会員には会員証を発行し、停留所と時刻表も会員のみ告知するなど運用の工夫を行いました。利用人数が安定するまでは自治会役員が各世帯に「Eバス基金」への寄付を募って運営資金とし、自家用車通勤の人にもEバスの意義を説明して利用を訴えました。

貸切バスによる自主運営「Eバス」の運行開始から10年後、東日本大震災の影響による存続の危機から、路線バス化を目指して横浜市地域交通サポート事業に登録。横浜市の支援を得ながら、利用実態・利用意向に関するアンケートや、停留所の位置や時刻表など具体的な運行計画の検討を行いました。約半年間の試験運行を経て、2014年には天台観光を運行会社として、正式に路線バスとして運行することができました。

協働で工夫したポイント

自治会

天台観光が法令を遵守できるよう、その周辺事項を工夫してクリアすることを決意しました。バス会社と具体的な提案を持ち寄り、月に2回以上丸1年かけて、お互い納得がいく結論が出るまで十分な話し合いを行いました。交通対策委員会は「30年来の課題を解決するまでは解散しない」と申し合わせ、誰もが未経験な未知の課題に取り組みました。最終的には、しっかりと責任をもって決断することが必要です。

天台観光

自治会の「実現する」という姿勢を強く感じ、運行ダイヤを密にする、乗降場所を増やすなど利便性を高めて利用者を増やす努力をしました。目標・目的の共有のために定期的に顔を合わせ、地元の意向をよく聞いて方向性に沿った結論を目指し、問題を解決するためにどこに相談すれば良いのかを考え続けました。

ふりかえり（評価）

(1) 事業の実施結果

30年待ち望んだEバスの運行は住民にとっても喜ばれました。併せて立ち上げた、高齢者の送迎を自家用車で支援する「あやめ会」の活動とともに住民から評価され、自治会への協力度が高くなりました。地域と自治会との連携が増え、行事等の交流も盛んになり、ボランティア活動にも弾みが付きました。

天台観光もEバス事業を拡大することで年間定期収益を確保することができ、双方にとって「Eバス」事業となりました。2022年4月1日で運行20周年を迎えることができます。

予想していなかった良い結果

会員証を持っているとEバスに乗る気持ちになるのか、高齢者の外出が増えました。またEバス事業の取組が評価されて視察や講演の依頼が増え、それをきっかけに他の地域との交流が始まり、現在でも続いています。

予想していなかった悪い結果

乗車定員を超えて運行できないため、雨雪日は乗車できない人が出ることがありました。次便まで30分くらい時間が空くため、歩かざるを得ない状況も発生しました。

(2) 協働の一連の取組結果

事業準備段階	プログラム遂行	事業終了後
◎	◎	◎

自治会

長年の住民の要望が実現でき、十分でない本数でしたが、今では自宅から外出できる事が住民のよろこびです。

天台観光

どの段階でも、直接会って話し合う機会を可能な限り設けてスムーズな意思疎通を保つことができました。問題や懸念されることが生じた場合には、解決の方策を提案して決定は自治会に委ねました。クレームにはすぐに対応し謝罪すると共に、ハード（車両）、ソフト（乗務員）両面の向上を目指し、事故なく運行を続けられて良かったです。

今後の展開

自治会役員の任期中に解決できない課題は当然ありますが、課題の先送りの連続では何も変わりません。関係者全員が未経験の未知の課題についてはそうなりやすいと思います。課題や問題のどこから手をつけるか、自治会、団体が知恵を出し合うことが必要であり、振り返れば、それが問題解決の大きなステップにつながりました。自分たちのまちをもっと住みやすくしたい、そのために自分には何ができるかというボランティア精神が基本でぶれなければ、不可能が可能になると思います。

活動者・参加者の声

自治会

住民から気軽な足として感謝されています。
(佐久間 幹雄さん)

天台観光

利用者の利便性向上（10回分の料金の11回乗車）と、乗務員の負担（現金の受け渡し、釣銭用小銭の準備）軽減のため、回数券の利用促進を図りました。地元の商店、美容院、クリニックで購入できるようにしてくれ、月一度の集金にも協力してもらいました。地元の方々が本当によく協力してくれました。
(松尾 高明さん)